

< 施設整備方針 >

テーマ 豊かな自然環境の中で真剣な瞳と輝く笑顔があふれる学び舎

□: 基本構想 ▶: 設備計画
 ▶: 建築計画 ▶: 構造計画

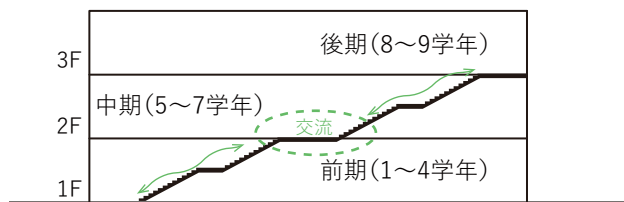
1 一貫した教育活動と多様な展開を実現する学校

子供たちにとって、この学校は心身ともに大きく成長する義務教育の9年間の学び舎となります。児童生徒の成長を育み、多様化する教育内容への対応、健やかな体づくりの推進等、長期を見通した良質な教育環境を整えます。

① 9年間の連続した学びに適した効果的な施設整備

- 各学年段階の区切りに対応した空間構成や施設機能を備え、9年間を見通した教育活動ができる施設とします。
- 日常的に自ずと異学年交流が生まれる空間とし、また、特別教室や運動施設の共同利用により、授業や学校行事等を通じて、異学年交流の充実を図れる施設とします。

- ▶ 階層ごとに学年段階の区切りに応じた普通教室の配置 [1F: 前期 2F: 中期 3F: 後期]
- ▶ 普通教室エリア内を横断する吹抜け直階段により、全ての階がつながる一体空間が生まれ、日常的に同階以外の活動も感じることができる計画 (イメージ①)



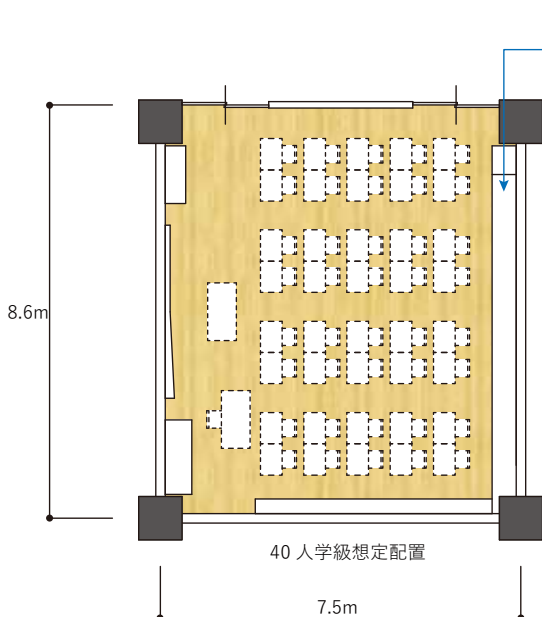
(イメージ①) 階段

② ゆとりのある教室の整備

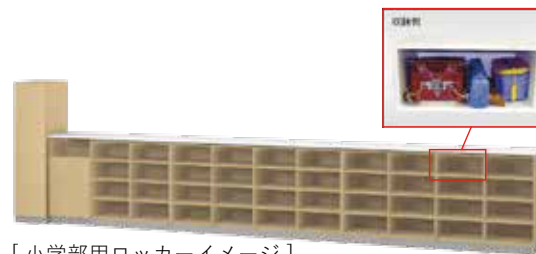
- 机や家具の大きさや配置、行われる学習活動等を勘案したゆとりのある教室面積とし、多様な学習形態に対応できるように配慮した施設とします。
- 充実した収納スペースを設ける等、学習活動の充実を図るための施設とします。

▶ 普通教室の長辺方向に壁面ロッカーを配置

小学部は、荷物が多いため、幅が広いロッカーを採用し、中学部は、教材がおけるようロッカー数が多いロッカーを採用



普通教室の長辺方向に壁面ロッカーを配置できるため、必要十分な収納を確保できる。



[小学部用ロッカーイメージ]



[中学部用ロッカーイメージ]

③ 主体的に学ぶための学習空間づくり

- ・少人数学習教室等、個別に利用できるような空間の整備を行います。
- ・教科ごとに必要な設備環境を備えた場や多目的スペース等、多目的利用が可能な空間を配置します。

④ 情報化・国際化に対応する教育活動を展望した施設環境の整備

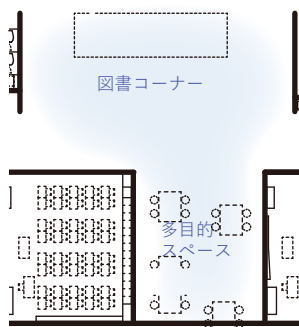
- ・普通教室においても、ICT を活用した効果的・効率的な指導が行えるよう、コンピューター、プロジェクター等の利用できる施設とします。
- ・英語教育や外国語活動を通じたコミュニケーションと交流ができる空間を配置する等、多様な文化への理解を深めることができる施設とします。

- ▶ 日常的に学ぶことができるような図書コーナーを各階に配置。
- ▶ 外国語活動教室による国際教育とともに、図書コーナーの一角を畳敷きとすることで、郷土文化と日常的に触れ合えるよう計画。(イメージ②)
- ▶ 学年段階区分に応じた学習環境の整備 (図①)
- ▶ 各学年が利用しやすいよう図書メディアセンターを1Fに配置 (図②)

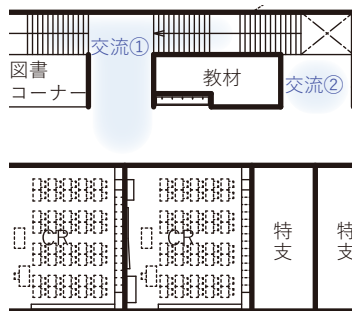


(イメージ②) 図書コーナー

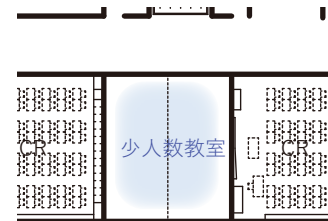
[前期]
1F 図書コーナーと多目的スペースの活用。一体利用で低学年から読書や個別学習の習慣について学べるような空間構成。



[中期]
図書コーナーや直階段の中間点で、さまざまな学年と交流できる空間構成。

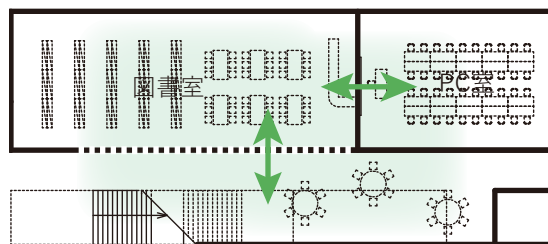


[後期]
図書コーナーとともに、少人数教室を配置することで、個に応じた学習に対応する空間構成。



(図①) 学年段階区分に応じた環境

[図書メディアセンター]
PC室と効果的な連携ができる配置構成。階段下の吹抜け開放空間に広がって読書・学習を行うなど、多様な学習に対応。日常的に本や教材と触れ合うことができる空間。



(図②) 図書メディアセンター

⑤ 地域とともに育む学校

- ・子供たちの学びの支援、子供たちとの交流等、学校と家庭・地域の有機的な連携が可能となるような施設とします。

- ▶ 地域の方々と世代間交流を図ることができるよう高齢者から子どもまで多様な人々が利用することを想定した施設計画 (ユニバーサルデザイン)

2 明るく笑顔のたえない楽しい学校

学校は児童生徒にとって、学習の場だけでなく、生活の場としての機能を有することから、児童生徒の活気があふれ、心身ともに健康な学校生活を送ることができる環境とします。

① 様々な交流を創出する施設

- 児童生徒同士、児童生徒と教職員の交流を促す多目的スペースを有効的に配置した施設とします。
- 異学年交流の促進を通じて、児童生徒が楽しく過ごし、かつ、コミュニケーション能力、リーダーシップ等が育める施設とします。

- ▶ 普通教室エリアを横断する直階段で、日常的な交流が図れる配置
- ▶ 学年集会や異学年交流に利用できる多目的室を各階に配置
- ▶ 校舎中央部に、開放的なエントランスホールや小体育館を設け、交流を促すような配置計画（イメージ③）



（イメージ③）1F 昇降口から見たエントランスホール

② 安全で人に優しく使いやすい施設

- 全ての児童生徒が生活しやすいように、ユニバーサルデザインに配慮した施設とします。
- 児童生徒の心身の健康を確保するため、立ち寄りやすい位置に保健室や教育相談室を配置する等、児童生徒や保護者が安心して利用できる施設とします。

- ▶ ゆとりのある廊下の設定
- ▶ 各階に多目的トイレを設置
- ▶ トイレは、低学年用と高学年用の体格に応じた仕様を採用（器具の適正な高さ設定）
- ▶ I型校舎でわかりやすい動線計画
- ▶ スロープの設置等、可能な限り段差をなくした施設計画

3 玉里地区の豊かな自然環境と共存する学校

玉里地区の豊かな自然環境を活かした施設整備を行い、周辺景観と調和した学校環境を整えます。

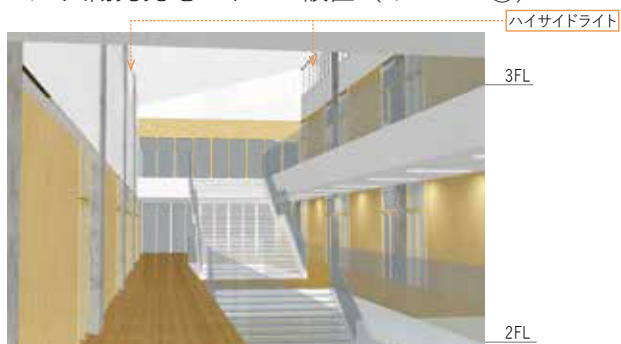
① 快適な空間づくり

- 児童生徒が安らぎを感じる周辺景観と調和した材料、快適に学習・生活ができる色彩計画等を備えた施設とします。
- 自然採光・通風・換気等に十分配慮した施設とします。

② 省エネルギーや環境教育に対応したエコスクールの整備

- 太陽光発電等の自然エネルギーの活用を検討し、施設自体が環境教育の教材として利用できる施設とします。

- ▶ 内部の木質化により、あたたかみのある室内環境を整備
- ▶ 吹抜け・ハイサイドライトによる自然採光をとりいれた計画（イメージ④）
- ▶ 太陽光発電パネルの設置（イメージ⑤）



（イメージ④）吹抜け・ハイサイドライト



（イメージ⑤）太陽光パネル

4 安全性に配慮した安心できる学校

防犯性・防災性を備え、安心して学校生活を送ることができる環境を整えるとともに、緊急時に児童生徒や地域住民等の生命を守ることもできる安全な学校とします。

① 防災に配慮した施設

- 災害時、児童生徒等の人命を守るとともに、被災後の教育活動等の早期再開を可能とするため、施設や設備の損傷を最小限にとどめる等、十分な防災機能を有する施設とします。
- 情報通信機能の確保や自家発電設備の整備等、避難所としての必要な機能を確保した施設とします。

- ▶ 鉄筋コンクリート造で、各法令に則った耐震安全性能を確保した構造計画
- ▶ 太陽光発電設備、非常用発電設備等の設置

② 目の行き届きやすい施設

- 校内共用部や屋外施設の視認性を確保する等、死角となる場所を少なくした安全な施設とします。
- 不審者等に対して適切に対応できる位置に職員室を配置する等、セキュリティに配慮した施設とします。

- ▶ 校内を見渡せるよう一直線上に、教室を配置
- ▶ 職員室を2F中央部に配置することで、校舎内や正門及びグラウンドの視認性を確保
- ▶ 防犯カメラの設置

③ 安全な施設の整備

- 学校内にある全ての施設・設備について、児童生徒の多様な行動を踏まえ十分な安全性を確保した施設とします。

- ▶ コーナーガードの設置等、安全に配慮した施設づくり
- ▶ 建築設備耐震設計施工指針に基づき、十分な耐震性能を確保
- ▶ 車両動線と児童生徒動線が交わらない安全な動線計画

* 完成イメージ (H29.11 時点)



<今後の検討課題>

1. 長期的な視点に立った施設整備

- コンパクトで機能的な施設及び長期的な維持管理を見通した計画
- 施設の合理性及びライフサイクルコスト等を勘案した持続可能な施設づくりを実現する全体計画の検討

- ▶ 長寿命な鉄筋コンクリート造、十分な耐震安全性能を確保した設備の採用
- ▶ 適正な階高設定により、イニシャルコストを抑えた施設計画
- ▶ 教室間を可変性のある壁で構成した更新しやすいI型校舎で、将来の改修にも対応できる施設計画

2. 施設形態別の特性や学習・生活環境

- B-②案を基に、敷地の有効活用、効率的な学校運営を踏まえた施設整備計画
- グラウンド、駐車スペース等の必要な面積を確保し、効果的な校内動線を実現する配置計画の検討
- 有効的な学習活動を行うために必要な教室まわりの構成や教育空間を実現する平面計画の検討

- ▶ 学年代階区分に応じた普通教室構成小中一貫校としての教育特性を活かすことができる計画
- ▶ 管理動線や児童生徒動線を考慮した一直線上の教室配置

3. 周辺環境や校内における日照

- B-②案に対する懸念事項（主要道路の日照影響や教室の採光について）を緩和する計画
- 敷地境界からの離隔距離や諸室の高さ及び屋根形状等の適正な設定により、日照影響の緩和を実現する断面計画の検討

- ▶ 教室の必要な天井高さを設定し、建物高さに配慮した計画
- ▶ 吹抜けとハイサイドライトにより自然採光をとり入れる計画
- ▶ 普通教室エリアの直階段においては、廊下の有効な日照を確保できるような開口部を計画

4. 周辺環境に適する景観

- 公共建築に相応しい景観を確保するための計画
- 景観に配慮した形状や材料の選定等により、周辺環境との調和を実現する立面計画の検討

- ▶ ヴォリュームを抑えた高さ設定と周辺環境と調和するような色彩計画

5. 地域特性を活かした教育環境

- 玉里地区の豊かな自然環境を身近な教材として、教育活動に有効活用するための計画
- 霞ヶ浦の水生生物等の観察を学習活動の一環として利用できる施設環境を実現する外構計画及び設備計画の検討

- ▶ 来年度内を目処に、教育内容等のソフト面と協議して、内容を検討